

内閣総理大臣 石破 茂殿
防衛大臣 中谷 元殿
湯布院駐屯地司令 横田紀子殿

湯布院ミサイル問題ネット

(旧称:湯布院駐屯地「敵基地攻撃」ミサイル問題を考えるネットワーク)

事務局 鯨津 憲司(ときつ けんじ)

由布市湯布院町川北894-193 tel,fax0977-28-2105

抗議ならびに要求書

～第2特科団創隊記念行事に抗議するとともに住民説明会開催を要求します～

8月29日の防衛省発表では、本年度に長射程ミサイルの12式地対艦誘導弾能力向上型を健軍駐屯地の第5地対艦ミサイル連隊へ配備し、引き続き他の自衛隊施設への配備を進めるとされています。さらに「島嶼防衛高速滑空弾」を本年度に富士駐屯地、来年度には、上富良野駐屯地及びえびの駐屯地に配備する予定となっています。湯布院駐屯地に所在する第2特科団本部は第5地対艦ミサイル連隊をはじめ九州・沖縄の総ての地対艦ミサイル部隊を指揮下におく司令塔です。また、えびの駐屯地で今後新編され高速滑空弾を運用する部隊もその指揮下に入るものと思われます。

湯布院駐屯地には今年3月に第8地対艦ミサイル連隊が発足しました。この部隊が運用するミサイル発射機は容易に長射程ミサイル用に転用できるはずです。また、大分分屯地(敷戸弾薬庫)では今年12月にも長射程ミサイルが格納可能な大型弾薬庫の最初の1棟が完成するといわれています。これは湯布院駐屯地にいつ長射程ミサイルが導入されてもおかしくないことを物語っています。内陸山間の湯布院にミサイル部隊が配属されていることは、当初から長射程ミサイルの配備を織り込んでいたものと思われます。

他国領域を射程に入れる長射程ミサイル・12式地対艦誘導弾能力向上型などは従来の政府の政策である「専守防衛」を逸脱して、運用によっては先制攻撃になる極めて攻撃的で危険な兵器です。これらの配備は東アジアの軍事的緊張を高め戦争の危機を招き寄せる恐れがあります。政府・防衛省のいう「抑止力」とは武力による脅迫の言いかえに過ぎず、際限のない軍拡競争を引き起こし、「抑止」どころか不測の事態で戦争を誘発しかねません。このような攻撃ミサイルを日本が保持することは憲法9条に反するものであり許されません。

第2特科団本部からのミサイル発射の指令で九州、沖縄そして東アジアを戦争に巻き込む恐れがあります。ウクライナでもガザでもミサイル攻撃で多くの市民の尊い命が失われています。私たちの町、湯布院からそのような悲劇がうみ出されることは到底受け入れられません。また逆に標的とされ自衛隊員と住民が巻き込まれ犠牲になることも拒絶します。長距離ミサイルが湯布院駐屯地に配備されれば、これらの災厄はさらに大きなものとなるでしょう。

第2特科団創隊記念行事は一見華やかに見えても、その実は戦争への道を掃き清める危険な催しです。よってこれに強く抗議するとともに政府・防衛省が住民の疑問や不安に向きあう場として住民説明会を開催することを要求します。